

就農に向けた知識・技術習得等についての意見交換会 in 田布施農工高

# 農の次代を考えよう

国営事業で整備が進む農地を活用し、農業を担う若者を育てるための「就農に向けた知識・技術習得等についての意見交換会」(山口県立田布施農工高・中四国農政局主催)が田布施町の田布施農工高で実施された。同校生物生産学科2年の35人が参加。山口県立農業大学校から職員と1年生8人を招き、講演やグループディスカッションを展開しました。



講師の質問に答える生徒たち(左から2人目)とディスカッションする生徒たち

## 実践力や対話力も大切

就農するには

「専攻科に就くには、専門知識や技術を身に付けるだけでなく、実践力や対話力も大切だ」と、山口県立農業大学校の河村千宏(ちひろ)さん(19)は話す。河村さんは、山口県立農業大学校の生物生産学科2年生35人が参加した「就農に向けた知識・技術習得等についての意見交換会」で、自身の経験や知識を語り、参加者から質問を受けながら話し合った。河村さんは、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

## 講演 農業大学生の声



河村千宏さん(19) 山口県立農業大学校 生物生産科1年

「農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だ」と、山口県立農業大学校の河村千宏(ちひろ)さん(19)は話す。河村さんは、山口県立農業大学校の生物生産学科2年生35人が参加した「就農に向けた知識・技術習得等についての意見交換会」で、自身の経験や知識を語り、参加者から質問を受けながら話し合った。河村さんは、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

## スマート農業体験



スマート農業体験の様子

スマート農業体験の様子。タブレット端末を使い、圃場の温度や湿度、土壌水分などをリアルタイムで確認できる。参加者は、最新の農業技術に触れ、農業の未来を感じた。

## 講演「農業という仕事について」



奥野 忠さん 山口県立農業大学校 教務課長

奥野忠(ただし)さんは、山口県立農業大学校の教務課長として、農業の現状と未来について講演した。彼は、農業は単に食料を生産するだけでなく、環境保全や地域活性化にも貢献していることを強調した。また、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

農を受け継ぐ@南すおう ディスカッション in 田布施農工高

# 農の可能性を耕そう

国営事業で整備が進む農地を活用し、農業を担う若者を育てるための「農を受け継ぐ@南すおう ディスカッション」(山口県立田布施農工高・中四国農政局主催)が田布施町の田布施農工高で実施された。同校生物生産学科2年の35人が参加。山口県立農業大学校から職員と1年生8人を招き、講演やグループディスカッションを展開しました。



魅力ある法人就農についてグループ討議を展開、活発に意見を交換した

## 若者が活躍できる環境

法人就農の魅力

「法人就農の魅力は、若者が活躍できる環境にあることだ」と、山口県立農業大学校の河村千宏(ちひろ)さん(19)は話す。河村さんは、山口県立農業大学校の生物生産学科2年生35人が参加した「農を受け継ぐ@南すおう ディスカッション」で、自身の経験や知識を語り、参加者から質問を受けながら話し合った。河村さんは、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

## 就業に関する情報提供

### 担い手育成を支援



西本 和生さん 山口県立農業大学校 農務課長

西本和生(かずひこ)さんは、山口県立農業大学校の農務課長として、担い手育成の支援について講演した。彼は、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

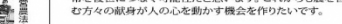
### 農業体験で感動を



角田 浩太郎さん 田布施町経済課 主事

角田浩太郎(たかひろ)さんは、田布施町経済課の主事として、農業体験の重要性について講演した。彼は、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

### 農を志しイターン



荒井 昌基さん 田布施町地域づくり協力員

荒井昌基(まさもと)さんは、田布施町地域づくり協力員として、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

## 話題提供



瀬戸 太郎さん 中国四国農政局 南四国防衛整備事務所 所長

### ほ場整備で地域が変わる

瀬戸太郎(しょうた)さんは、中国四国農政局南四国防衛整備事務所所長として、ほ場整備の重要性について講演した。彼は、農業を志す若者に、実践力や対話力も大切だと話した。

## 農業法人からの情報提供

会場では集落営農法人6団体と、集落営農法人連合体「アグリ南すおう」の代表者による情報提供もあつた。

6団体は、米や麦、大豆を中心に野菜や果樹など、多品種を生産。「石蔵の里」は今年、県立農業大学校卒業生を正式雇用し、20代従業員3人とともに活動の死交点を目指しています。代表理事の河村さんは「日本は人口減ですが、アジアを視野に入れば、開拓の余地は大きい」と成長性について語りました。「ウエスト」は組合長の藤本さんが「従業員の平均年齢は73.5歳。若返りを急がなくては」と課題を語り、伊藤美穂(みほ)代表理事の河村さんは「農業が増えれば、女性の力が特に重要」と期待しました。「小行司」の理事の川島さんは「写真共有アプリのインストールを通じて、農業の魅力や若い世代にアピールしてきて」と情報発信の大切さを話しました。生産者の向上も、農業が増える課題の一つ。「友進」代表取締役の宮本さんは「コストを下げながら、味の良さや安全性などをどう高めようか。効率性

## 多品種や効率化推進

多品種や効率化推進。農業法人は、多品種を生産し、効率化を図ることで、競争力を高めることを目指している。また、若い世代の就農を促進するため、実践力や対話力の重要性を強調している。

# 農の未来を育てよう

## リーダーシップ養成 アグリフォーラム

Vol.2  
in  
田布施農工高

「国営事業で整備が進む農地を活用し、農業を担う若者を育てる」「リーディング育成アグリフォーラムVol.2」(山口県立田布施農工高、中国四国農政局主催)が田布施町の田布施農工高で実施された。同校が取り組む地域連携教育「農工連携」田布施版あいプロジェクトの一環で、生物生産科の1年32人が参加。地域で農業に携わる20代の法人就農者の講演や、グループディスカッションなどが行われました。

### 職業としての農業 魅力や課題を話し合う

河内山さん(左から2人目)とディスカッションする生徒たち

河内山さんは、農業、行政の支援を受け、1年間の研修を受けた。現在は、農業大学校で、様々な研修を受けている。現在は、河内山さん(左から2人目)とディスカッションする生徒たち

河内山さん(左から2人目)とディスカッションする生徒たち

### 責任とやりがいを実感

井原 堂宏さん  
(農事組合法人「石塚の里」農園)

「農業は、幼い頃から身近に感じて、高校に進学した後も、自然の中で育つように育ててきた。卒業後は農業組合法人に就職し、責任とやりがいを実感している。農業は、幼い頃から身近に感じて、高校に進学した後も、自然の中で育つように育ててきた。卒業後は農業組合法人に就職し、責任とやりがいを実感している。」

### 取穫時の達成感は格別

山本 将史さん  
(農事組合法人「小分町農園」)

「小生の頃、家族の来づくりに合わせて、取穫の時に感じる達成感は格別でした。農業を深く学びたいという思いで、卒業後は個人で農業を営んでいます。」

### 4K農業をブツ飛ばして就農へ

石津 昌弘さん  
(山口県農業協同組合青年部 法人連携推進コーディネーター)

「足元から3年が経過した現在、生産費の低減や作業の効率化などに成果が上がりました。2人の若手就農希望者を受け入れました。無人ヘリコプターによる防除や草刈りロボットによる除草などのスマート農業も着々と進め、4K農業を打破しています。」

# 若者がつなぐ農業の未来

## リモートディスカッション

人と人の出会いが自分の成長につながる

山口県立田布施農工高 秋山直樹さん

就職して働く喜び 将来は独立!

山口県立田布施農工高 荒川香葉さん

国際規格の農場管理を研究中

山口県立田布施農工高 生物生産科2年生 河村千太郎さん

## 就農を志す私たちの思い

「農業を志す私たちの思い」をテーマに、山口県立田布施農工高の生物生産科2年生5人と、田布施農工高の2年生35人が参加しました。

「農業は、幼い頃から身近に感じて、高校に進学した後も、自然の中で育つように育ててきた。卒業後は農業組合法人に就職し、責任とやりがいを実感している。」

### みんなの可能性を耕したい

山口県立田布施農工高 生物生産科2年生 奥野 忠さん

「安全を確保する認識を醸成し、GAPの取得基準や管理方法も、持続可能な農場経営の手法を学習してほしい。」

### 就農に向けた学修について

「平均年齢は70、3歳と全国で2番目の高齢です。高齢化による人手不足が深刻です。加えて、農業には「苦しい」「汚い」「金(収入)が少ない」といった「4K」のイメージが強くあります。」









# 収穫野菜でピザ弁当

柳井市でひとりの親家庭などの生活困窮者向けに食事を提供するグループ「夢・すこやか☆老いも若きも子ども食堂」(岡山幸子代表)が19日、同市南町で子ども食堂を開いた。田布施町の

田布施農工高校の生徒が校内で収穫した野菜を使って作った弁当を無償で配布した。

同校の食品科学科と生物生産科の3年11人も参加し、ナスやピーマンなどの野菜を使って同校で焼き上げたピザとフライドポテト、クッキーを合わせた弁当30食を作った。事前に予約していた利用者は子供たちを連れ、高校生から弁当を受け取った。

子ども食堂は2017年から同町と伊陸地区の2カ所で月に2度開催。ピザが食べたいという子どもたちの要望を受け、ボランティア活動などでピザ作りをしている同校に依頼し、高校生が初めて参加した。

リーダーの行田万夏さん(18)は「子どもたちの希望に合わせて作った。喜んで

田布施農工高校生 子ども食堂支援

手作りのピザ弁当を子ども食堂利用者に手渡す高校生  
19日、柳井市南町



食べてくれてうれしかった。これからも機会があれば

参加したい」と話した。(山田貴大)



柳井市近郊のひとり親家庭支援事業

8月2日 子ども食堂で無料配布

限定60食 農工ピザセット

柳井市近郊のひとり親家庭の支援事業、第34回夢すこやか☆老いも若きも子ども食堂(岡山幸子理事長はつながる&学べるお弁当)をテーマに、田布施農工高とのコラボ企画第2弾として8月2日(日)午前11時半から午後0時半まで、柳井市南町二丁目の岡山ビルで開催される。

今回の子ども食堂は、好評で予約満員御礼となつた「農工ピザ講座」活動において、できたての料理を配達すると、新しい取り組みが認められ、厚生労働者の新しい生活様式の子どもの食堂対応事業に採択されたの開催になる。

田布施農工高校食品科学科の生物生産科野菜班とのコラボ企画第2弾の目玉は、前回大



ブルーベリースムージーに使うブルーベリーを収穫する田布施農工の生徒ら

たハッピーボックス。事前予約制で60食限定で無料配布する。

また、「つながるサブライズ体験」として、輪投げやヨーヨーすくいなどのゲームをスタンプラリーとして楽しみ、体験者には、伊陸にある子ども食堂のブルーベリー農園で、農工生が収穫したブルーベリーで作る「ブルーベリースムージー」や「クッキーメダル」のプレゼントもある。

予約申し込みは、夢すこやか☆老いも若きも子ども食堂(携090・7543・7778 FAX0820・23・3110岡山まで)。

令和2年8月1日(土) 周南新報 掲載

田布施農工「望幸隊」優良賞

高校生部門

コロナ禍で子ども食堂支援

毎日農業記録賞  
17日に発表された第48回毎日農業記録賞(毎日新聞社主催、農



ピザ作りに参加した子どもたちと記念撮影する望幸隊メンバー—田布施農工提供



行田万夏さん

林水産省・県・県教委など後援、J A全中など協賛)の高校生部門で、優良賞に県立田布施農工高の「地域をつなぐ at home 望幸隊(アットホーム ぼうさいたい)」が選ばれた。

望幸隊は2018年の西日本豪雨を機に、被災者が「幸せ」を感じる支援を目指して結成。防災食の開発や、地域と連携した防災訓練を実施してきた。

今春、新型コロナウイルスの拡大で休校が続くなか、柳井市の子ども食堂から「一人親世帯の子ともに力を貸してほしい」と頼まれた。温かい雰囲気作りのため名称にアットホームを加え、感染予防策を取りつつイベント開催に乗り出した。

「野菜を食べさせたい」という親の思いや、子どもの好みを調べ、「農工ピザ」を開発。クイズも楽しめる企画を7月に開くと「苦手な野菜が食べられた」と好評だった。活動はさらに拡大し、県内初の高校生が運営する子ども食堂の開設に向けて準備中だ。

メンバーは2、3年生の12人。隊長の行田万夏さん(3年)は「悩みもあったが、得意分野を生かして活動できた」。指導する宗正いぶき教諭も「自粛生活の寂しさを抱えた子どもたちをどう支えるか、さまざまに挑戦できた」と振り返った。

このほか地区入賞には県立宇部西高2年、久原空さんの「農業のバトン」、県立山口農高3年、廣中智亮さんの「花を通して伝えたい想い」が選ばれた。

【竹島一登】

令和2年11月18日(水) 毎日新聞 掲載